

Bangladesh : イシュワルディ EPZ 調査報告

01. JUL. 13

(EPZ = EXPORT PROCESSING ZONE)

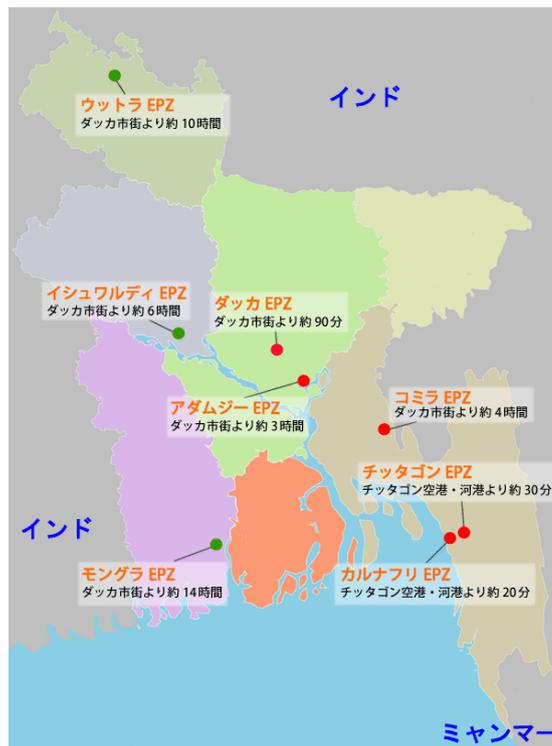
小島正憲

Bangladeshには政府公認の EPZ が、8箇所(右図)ある。ただしそのほとんどは、すでに工場で満杯であり、ことに右図の赤丸印の EPZ には空き地もない。かろうじて、ウットラ・イシュワルディ・モングラの3箇所 の EPZ には、まだ空き地があり、工場建設の余地があるという情報を得たので、今回、そのうちのイシュワルディ EPZ に調査に行ってみた。なお、満杯の EPZ は、いずれもダッカおよびチッタゴンから近距離にあるが、空き地のある3箇所 の EPZ は、一番近いイシュワルディでもダッカから車で5~6時間、遠いモングラは14時間も離れている。

Bangladeshにはこの他にも、地元政府が開発している工業団地がある。これらについては前回、ボリシャル県の工業団地を紹介したが、特段の進出メリットがあるわけではない。

1. イシュワルディ EPZ の位置

- Bangladesh北西部ラジャヒ管区パブナ県パクセイ市
- ダッカから西北へ150km、車で5~6時間
- チッタゴン港から車で12時間
- パブナ県の人口 252万人
- パブナ県の面積 2, 376平方 km



2. イシュワルディ EPZ の概要

(イシュワルディ EPZ の入り口) →



- 1998年設立
- 総スペース = 576, 000m²
1区画=2000m²
全部で288区画
- ※敷地1万m²の工場ならば60社ほどが入居可能。
- 左図がイシュワルディ工業団地の平面区割り図であるが、当 EPZ マネージャーの話では、すでにダッカのデベロッパーたちが土地を買い占めており、空き地はほとんどないとのこと。
- 電力はほぼ100%供給されており、停電はほとんどないため、発電機は不要。電気代=4. 95タカ/1KWH。

- CNG ガスの供給も可の方向。現在、ボイラーはディーゼル油。
- 土地のリース費用(30年間契約)は年間1m²=1. 25US\$。 Bangladeshではすべての EPZ で土地の購入は不可。
- 借地の上に工場を建設した場合、建築費用は1m²当たり300~350US\$。
- 建物付きの土地を借りる場合は、月間1m²=1. 6US\$。ちなみに10. 000m²で16, 000US\$。
- 労働者は豊富。100人の求人枠に1000人ほどの応募者が常時あり、求職者を断ることに困っているほど。したがって離職者はほとんどいない。ただし現時点では、経験者は少ない。ダッカからの U ターン組がじょじょに増加の傾向。
- 一般ワーカーの給与は新人で3000タカ前後、経験者で4000~5000タカ。ダッカ近郊と比較して、10~20%安い。人件費のアップ率は年間10~15%程度。
- ハルタル日の出勤率は80~90%で、わずかではあるが影響を受ける。
- EPZ へのワーカーの出勤方法は、徒歩・リキシャバイクなどの相乗り。
- 当工業団地には、日系工場2社が入居、操業中。

N 社 : 独資、16, 000m²の建屋で2012年4月から操業開始。日本向けジーンズの縫製工場。現在、工員1500名。

ワーカーの月間基本給与=5000~6000タカ。

R社： 独資、16,000㎡の建屋で2012年1月から操業開始。日本向けワーキング、カジュアルパンツなどの縫製工場。現在、工員850名。ワーカーの月間基本給与=5000~6000タカ。

- ・さらに2014年度の操業開始を目指し、日系工場が工場新築中。独資で15億円を投下。手袋製造会社。
- ・イシュワルディEPZ内で、現在、実際に稼働中の工場は10社以下である。建築中の工場もほとんど見られない。
- ・6000人のワーカーを雇用していた中国系のセーター縫製工場で、昨年、賃金未払いなどが原因で騒動が起き、この工場は現在、操業休止中。

3. 私見

- ・日系先行2社は、このEPZのメリットを十分に吸収し、すでに利益体質に入っていると思われる。
- ・このEPZは、なによりも私が労働集約型産業成功の3条件として上げている、低賃金のワーカーが蟻集してくるという点でメリットが大きい。しかし同時に、優れた管理者や経験者が集まりにくいというデメリットがある。
- ・進出企業がまだ少ないせいか、電力が十分に供給されており、停電がまったくなく、発電機が不要だということであり、発電機のランニングコストやメンテナンスなどの面を考慮すると、これは大きなメリットである。
- ・土地のリース料は安いですが、工場の建築費用や市中金利が高いことを考慮に入れると、低賃金のワーカーを大量に雇用する産業でなければ、進出メリットは少ない。
- ・このEPZは、パドマ河(ガンジス河)沿いに造成されており、雨季には洪水被害が危惧される。
- ・ダッカからかなり離れており、周辺には農村が広がっているのみであり、日本人スタッフにとって住みにくい場所である。健康面への配慮が欠かせないだろう。
- ・今後、このイシュワルディEPZに、日系を含む外資が、短期間に大量進出することは考えにくい。それだけのメリットはないものと思われる。したがってこのEPZに工場が林立するような状況は、まだ当分、出現しないであろう。
- ・バングラデシュの工場オーナーたちは、ダッカやチッタゴン周辺から、地方への工場移動を嫌う傾向が強い。住み慣れた環境を離れることや、それが都落ちのような感じを抱かせるからであろう。しかしながら最近のダッカ周辺での労働者の暴挙にあき果てた一部の工場オーナーたちが、地方に進出する気配を見せ始めているという。

以上